

こうぼう てんち
光芒の天地

加羅古呂庵 一泉

光芒の天地

北海道の東部にある津別峠から見る風景は、どこまでも広がる大地と大いなる空に包まれて、その広大な空間に圧倒されます。展望施設に登ってみると、360度のパノラマが広がっていて、眼下には屈斜路湖、その先には摩周岳や斜里岳などが見えます。西を向けば大雪連山が、その左手には雌阿寒岳・雄阿寒岳が望めます。

太古から続く火山活動によって形成された雄大な風景を前にして、「大地胎動」「湖水白雲」「寂光暮色」の3つの部分から構成しました。

津別峠から見渡すと、どこまでも広大な森が広がっていますが、今も火山活動は続いており、大地の下に大いなるエネルギーが躍動しているように思えてきます。

日本最大のカルデラ湖である屈斜路湖を眺めると、木々の緑の中に湖水が青空を映し、その上に白い雲が流れていきます。

やがて夕暮れが迫るころ、雲の間から太陽がやさしい光を放ち、山なみを浮き立たせて、時が進んでいきます。

※縦譜につきましては、当該楽器のほかに他の楽器のパートを補助的に記載しています。ただし、複数のパートを集約し、オクターブも変えているところがあります。また、十七絃は箏に置き換えて記載しています。正確には、加羅古呂庵ホームページの「作品リスト」より五線譜（スコア）をご参照ください。尺八は、1尺8寸管で記載していますが、1尺6寸管でも可能（特に多孔尺八の場合）です。

加羅古呂庵ホームページ



1尺8寸管 (or 1尺6寸管)

尺八I

メツ 四

1尺8寸管 (or 1尺6寸管)

尺八II

メツ 四

二上がり

三味線

8 二 二 三

楽調子 途中六・斗 調弦替えあり

箏I

二 三 五 七 九 斗 為 巾

楽調子 途中六・斗 調弦替えあり

箏II

二 三 五 七 九 斗 為 巾

十七絃

二 三 五 七 九 1 3 5 7

運指、奏法については、適宜工夫していただいてけっこうです。